

「ブラインド」パラスポーツ 体験教室

種目：ゴールボール

主催：東京都・公益財団法人東京都スポーツ文化事業団、協力：東京都立大学

活動場所

南大沢学園体育館

2022年10月2日（日）

報告

「ブラインド」パラスポーツ体験教室

10月2日(日)、南大沢学園体育館において、「令和4年度都立特別支援学校活用事業ブラインドパラスポーツ体験教室」の3回シリーズ第2回として「ゴールボール」教室が開催されました。この教室は、本学ボランティアセンターのスポーツボランティアプログラムと連携しています。

ゴールボールとは？

ゴールボールは、視覚障害者を対象に考えられた競技です。目隠しをつけ、鈴の入ったボールを転がし合い、相手ゴールに入れて得点を競います。視覚以外の感覚を研ぎ澄ませ、音や声などを頼りにプレーします。

スポーツ体験教室、会場準備・受付

今回の「ゴールボール」には、参加者20名（障害のある方3名、障害のない方12名、見学介助5名）、一般ボランティア5名、本学プログラムメンバー11名、職員2名、他スタッフ6名が参加しました。

12時過ぎから、増田講師（東京都障害者スポーツ協会、ゴールボール協会理事）・本学信太先生のご挨拶、プログラムメンバーが自己紹介しました。体育館床全面をモップ掛けした上で、増田講師の指導の下、ゴールボールのコートを設営しました。コート全てのラインは、幅5cmのテープによってマーキングし、テープの下には、紐を入れて、選手はこの凸凹を触ったり踏んだりして位置や方向を把握します。今回使用した紐は少し太すぎたようで、通常は3mmの紐を使います。皆協力して作業し、事業団募集ボランティア7名も途中から参加してコミュニケーションを取りながら一緒に準備しました。



13時から参加者も到着し始め、コロナ禍が継続する状況から、受付で全員が検温と手指消毒を実施して、体育館の窓を開け、空調設備で換気を徹底しました。



視覚以外の感覚で、競技体験が盛り上がる

13時30分、事業団森様の司会でスタートし、増田講師が当該教室全体の指導・進行を進めました。

全員で準備体操を行い、最初にゴールボール紹介のビデオを視聴し、2人1組になって1人がアイシェードを装着して、体育館の中を歩いて位置を確認しました。

ゴールボールの練習を始め、6列に向き合ってボール投げをしました。ゴールボールの攻撃時、投げたボールが「攻撃エリア」と「ニュートラルエリア」の両方の床でバウンドしなければ反則となります。初心者は「攻撃側エリア」でバウンドすれば、「ニュートラルエリア」から相手の「守備エリア」にかけてボールが転がります。アイシェードを装着して床に横倒れになっての守備の体勢についても指導を受け、殆どの参加者ができました。



最後に3人ずつのチームが編成され、3分間のゲームが総当たりで催されました。ボールの転がる音を聞いて横倒れになり体でボールがゴールに入るのを防ぐ守備は、目が見えない状態でもファインプレーが随所で見られました。参加した子供たちも上手にボールを投げて得点し、観衆から拍手がありました。ボールが回らなかったメンバーや障害のある方にも、味方同士でボールを譲り攻撃の投球ができたので、全員でゴールボールを楽しむことができました。

プログラムメンバーの声

- ・ 段々とボランティアの先輩方を見習ってコミュニケーションを取ることができました。スタッフも参加者の方々もゴールボールを深く理解したい、楽しみたいと思っている方がとても多く、ナイスプレーをした時に自然と拍手が起こるなど、とてもいい雰囲気の中体験活動が行えたと思います。
- ・ 前回に引き続いて参加してくれた都立大生が参加者の誘導やコミュニケーションを取るなど、前回の経験を活かして動いてくれた場面があり、大変嬉しく感じた。
- ・ もっとゴールボールとか、その競技についての豆知識をもっているといいと思った。早く来てくれた人にゴールボールを触ってもらうのは、体育館に活気が出てよかったと思った。緊張しててもスポーツを通して固さがとれていくのがわかった。とても楽しんでもらえてよかった。